

2023 年 5 月 8 日

通貨ニュース

マレーシア:5 月金融政策会合～3 会合ぶりに利上げを再開

マレーシア中銀(BNM)は 3 日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の 2.75%から 3.00%に引き上げた。ブルームバーグの事前予想では現状維持の予想が有力であった。BNM は昨年合計で 100bps の利上げを実施してきたが、国内経済の減速懸念を踏まえて、今年に入り利上げを打ち止めていた(図表 1)。

声明文における世界経済に対する見解は前回会合から大きな変化が無かった。高インフレに伴う各国中銀の引き締めや地政学リスクの高まりなどを下振れリスクとした一方、主要国の経済の堅調さや中国経済の再開期待といった景気の押し上げ要因としている。マレーシア経済に関しては、22 年 10～12 月期実質 GDP 成長率が前期比年率でマイナスとなったものの、年間で見れば前年比+8.7%と 2000 年以来の伸びを記録した。年明け以降では堅調な個人消費を背景とした内需動向や労働市場の改善が確認されていることから、BNM は具体的な数字は示さなかったものの、23 年 1～3 月期の結果についてもやや強気な見方をしている。この点については今月中旬公表の結果を待ちたい。その先の景気については、観光関連産業の回復や政府による財政出動を上振れ要因、世界経済減速と不透明な国際金融市場動向を下振れ要因として指摘した。

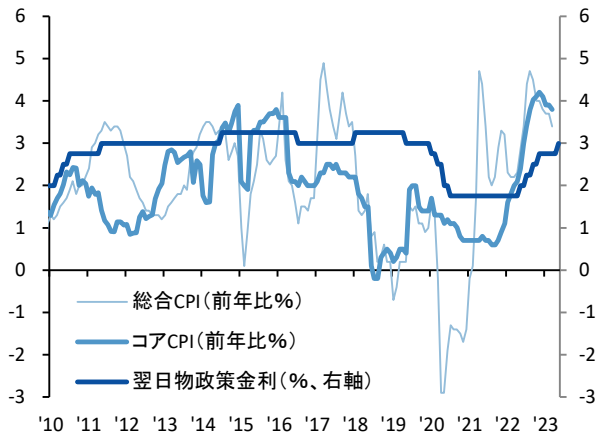
物価動向に関して、3 月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.4%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースでは同+3.8%となった。過去半年のトレンドを見ると、インフレ鈍化の要因は食料品とエネルギー価格が下落した影響が大きく、コア CPI の数字が総合 CPI を上回る構図となっている(図表 2)。インフレ再加速といった状況には至っていないものの、先述の通り予想以上の内需の勢いもあり、コア CPI の押し下げに時間を要している地合いの中で BNM は今回の追加利上げを決定したものと見られる。なお、BNM は政府による補助金や価格統制、金融市場環境、商品市況に左右される点にも言及しつつ、今年のインフレ予想を前年比+2.8%～+3.8%とした。

今後の動向について、BNM は景気やインフレ動向を示すデータ次第とする姿勢を示した。今回は堅調な国内景気動向、サービス価格をはじめ高止まりするインフレ動向に鑑みて追加利上げに至った格好だが、必要に応じて金融政策の姿勢を柔軟に検討していく可能性を示唆している。

今回の決定を受けて MYR は短期的な変動はあったものの、大きなトレンドの変化は見られていない(図表 3)。BNM の決定自体は市場予想に反する内容であったものの、大型連休中での MYR の上昇は同時期に開催された FOMC の内容を受けてのものが大きいだろう。FOMC では 5 月での利上げ終了の可能性が示唆されて FRB のタカ派姿勢は着実に弱まっている印象であるが、こうした動きはドルインデックスの推移にも色濃く出ているように思える(図表 4)。BNM においても今後 FRB に追随した利上げの必要性は薄れていく中で、今年後半に見込まれる世界景気減速懸念を踏まえれば、今回の会合で利上げは一巡するものと予想する。

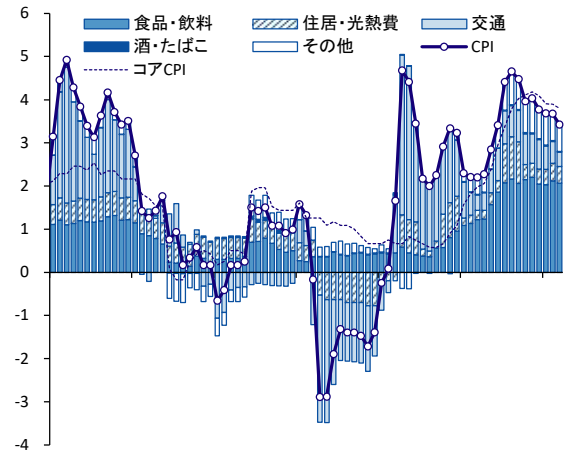
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)



出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: CPI の動向(前年比%、%ポイント)



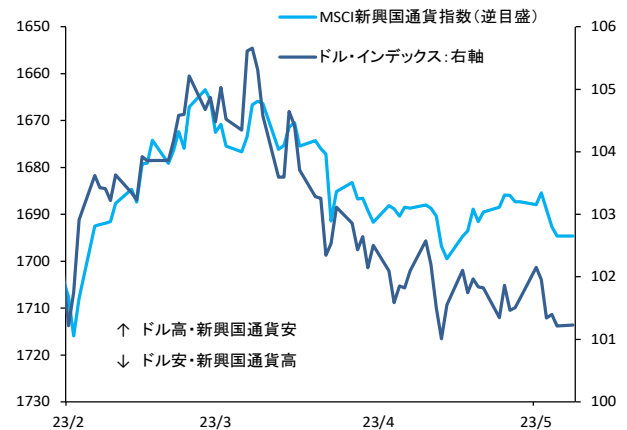
出所: マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 3: MYR の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: ドルインデックスと新興国通貨インデックス



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。